

“Agile459 Decade”
ふっつうのアジャイルへ

開催背景

- ◆ Agile459が立ち上がって10年目
- ◆ 四国のAgile注目度合いは今ひとつ(?)
- ◆ 東京では当たり前 & 浸透している
- ◆ 今後10年で四国でも当たり前 にしたい
- ◆ 変化を待つのではなく引き起こしたい

開催目的

- ◆ 「新しいビジネスにチャレンジにアジャイルは不可欠」という認識を広げる
- ◆ 当たり前前にアジャイルを実践している人に「彼らの当たり前前」と「四国の当たり前前」のギャップを認識してもらう
- ◆ 「自分たちもそこに到達したい」と参加者に強く印象づける

登壇者に求めるもの

- ◆ アジャイルを当たり前前に実践していること
- ◆ アジャイルの実践によってビジネス的に利益を得ていること
- ◆ アジャイルで人生がイキイキと充実していること

トラック

トラック案

9:30-10:00	アイスブレイクワーク		
10:00-11:00	基調講演		
11:00-12:00	事例講演(2つ)		
12:00-13:30	ランチトラック		
13:30-14:15	技術トラック	チームトラック	変革トラック
14:30-15:15	リファクタリング TDD レガシーコード DevOps	Scrum ファシリテーション モブプログラミング チーム変革	組織導入 スケーリング ティール組織
15:30-16:00	凱旋講演		
16:15-17:00	アジャイル実践者ライトニングトークス		
17:00-17:30	参加者全員ふりかえり		
18:00-21:00	懇親会		

当日のイメージ

なんと、このイベントは登壇者と参加者の距離がとても近くなっている。ちょっと近寄りがたいイメージのある登壇者でも、気さくに話しかけられるようになっている。

昼食をとりながら、参加者と登壇者同士が混じり合い会話が弾んでいる。あるテーブルではアジャイル実践者の具体的な実践の話に周りが引き込まれている。また違うテーブルでは参加者の悩みに実践者が真摯に答えている。またあるテーブルでは、登壇者の豊富な知識に周りほうなずくだけだ。どのテーブルもアジャイルを肴に話が弾んでいた。

当日のイメージ

登壇中に寝てる人など一人もいない。一字一句聞き漏らさぬように熱心に話を聞いている。Twitterのタイムラインでは自分が流した #agile459 #agile459decadeのツイートがトレンド入りしていた。それを見た人が「東京でも集まらない豪華メンツじゃん!」と話題になっているみたいだ。

当日のイメージ

アジャイルは理想の話でも、想像の話でもなく、現実には実践されているものだということがまざまざと伝わってきた。そして技術者として、管理者として、経営者としてそこに向かわなければならないという言葉にならない意志が湧いてきた。

「そうか、ビジネスとしても、仕事のやりがいとしても、アジャイルはとても大切なものなんだ」ということが、わかった気がする。

当日のイメージ

自分の現場でも、まず始めてみる事ができる

当日のイメージ

基調講演で事例発表を聞いて驚いた。四国にもアジャイルで成功した企業があるんだ！新しいことにチャレンジするには、これまでのやり方ではなく、新しいやり方でチャレンジしないといけないのか。

